

演奏に
役立つ

One Point Lesson

TUBA

チューバ

川浪浩一 かわなみこういち



- ◆出身 福岡県立豊津高校、相愛大学
- ◆所属 大阪フィルハーモニー交響楽団
- ◆趣味 野球観戦 お酒を少々!?
- ◆血液型 B型
- ◆星座 みずがめ座
- ◆読者にひとこと 楽しく練習しましょう!
- ◆手紙の送り先 BJ気付 もしくは kawanami-bm.tuba@angel.ocn.ne.jp

「低音域」から「ハイトーン」まで、音域を広げよう!!

みなさんこんにちは! 季節はすっかり秋ですね。秋といえば読書、スポーツ、食欲! (笑)、そして忘れてはいけないのが芸術の秋。

今回のテーマは、音域の拡大についてです。

■低音域を練習する際の注意事項

まずは、「低音域」についてです。チューバを演奏していく上で、「低音域が一番重要だ」といっても過言ではないと僕は思っています。よく低音域の方が簡単だと思って、ハイトーンばかり練習している人がいますが、低音域をよい音色で演奏している人はなかなか見かけません。低音域で息を吐くのがしんどくなったり、中音域より低音域のほうが息が長く続く人は、おそらくよい音色で演奏できていないと思います。

低音域を吹く上で大事なポイントを3つあげます。まず1つめは、下の音にいくほど『**息の量がたくさん必要**』ということです。リラックスして、たっぷりの息を楽器に送り込んであげましょう。2つめは、『**息のスピードをゆっくりにする**』こと。暖かい息をたくさん吐くようにイメージするとよいかもしれません。3つめは、下の音になるにつれて『**口を大きく開けること**』です。6月号の音色について書いたときの『お』の発音のイメージで開けてみましょう。さらに低音域を演奏するときには、口と一緒に喉を開かないといけませんが、これは、**口の奥に空気**でできたピンポン球が入っているようにイメージするとよいと思います。

少し難しいかもしれませんが、とりあえず何事も練習から! というわけで、【譜例1】を演奏してみましょう。この練習をするときに大事なものは、必ず**自分の出せる最高**によい音で練習することです。先程書いた3つのポイントを参考にしながら耳をよく使って、よい音が出ているか確認しながら進めてください。最初の中音域でまず最高の音を出して、その音色を変えないように下がっていきます。

下の音に下がるにつれて、口を縦に開いていくようにイメージするとよいでしょう。

次に【譜例2】を演奏してみましょう。少し難しいかもしれませんが、こちらもよい音で演奏できるように根気よく練習しましょう。どちらの練習も、休符の部分でたっぷりとブレスをとるようにしてくださいね。

■ハイトーンを練習する際のポイント

次は、ハイトーンについてです。これについては、問題を抱えている人が多いと思いますが、まず一番大事なのは、**ハイトーンを“高い”とか“難しい”と思わないこと**です。いきなり精神論から突入してしまいましたが、これはかなり大事なことです。大多数の人が、「ハイトーンは難しい、キツイ」と思い込んでかんでしまい、自分の首をしめてしまがちです。ハイトーンだからといって、難しいと考えすぎないようにしましょう。

ハイトーンがしんどくなる理由はいくつかありますが、1つは**体に力が入ってしまい、息を楽器に送り出すことが困難になる**からです。試しに体に思いきり力を入れて、たっぷりとした息を出そうとしてみてください。おそらく出せないと思います。人間は力を思いきり入れると息が出なくなるんです。重い荷物を持つときも息は止まりますよね。もう1つの理由は、**唇を力いっぱい閉めすぎて息を絞り出すような奏法になっている**こと。この状態でもよい音を出すことはできません。唇を横に引っ張るのもよくありません。

ハイトーンを吹くには、唇の細かい振動が必要なのですが、その細かい振動を得るためには、唇の真ん中を使うこと、それにある程度の息のスピードが必要にな

ってきます。チューバよりも小さい口径のトロンボーンやユーフォニアムなどのマウスピースなどを借りて練習すると、分かりやすいかもしれません。中音域より、少し息をまとめて楽器に送り込むイメージです。この息をまとめるのに、上唇を下唇にほんの少しかぶせていたり、その逆の人もいますが、これは各自の口の形などで変わってくるので、自分で鳴りやすい方法をみつけましょう。ただし、口の形が変わりすぎないように注意してくださいね。

では以上のことに気をつけながら、実際に練習をしてみましょう。まず【譜例3】を演奏してみましょう。この練習もたっぷりとブレスをとってよい音で、そして耳をしっかりと使って練習します。唇の振動が途切れないように注意してください。慣れてきたら同じ要領で、【譜例4】も演奏してみましょう。どちらもすぐに結果を出そうとしてはいけません。根気よく毎日練習してくださいね。今回載せた譜例は、すべてマウスピースでも練習することをお勧めします。

それと最後に注意ですが、低音域の練習は、ハイトーンの倍、行なうようにしましょう。これはハイトーンの練習ばかりしていると、音が硬くなったり、体に力が入りやすくなってしまいがちだからです。あくまでも基本は、低音域や中音域と考えるようにしましょう。

【譜例1】

【譜例2】

【譜例3】

【譜例4】